

式 辞

吾妻の山に春のいぶきを感じる本日、ご来賓の皆様、保護者の皆様をお迎えし、令和5年度卒業証書授与式を厳粛に挙げていきますことを、心より感謝申し上げます。

全日制課程322名、通信制課程30名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんの門出を心からお祝いいたします。

卒業にあたり、はなむけとして次の言葉を贈ります。それは「子どもには、たいていのみちは、はじめてのみちである」というものです。古田足日さんの書いた『大きい1年生と小さな2年生』の中にある言葉です。

体は大きいが臆病な小学1年生の「まさや」。背は小さいけれどしっかり者の2年生「あきよ」。「まさや」は、通学路の途中の暗い坂道が怖くて、一人で通ることができません。「あきよ」に手を引かれ、毎日やっとの思いでその坂道を通り抜けています。「まさや」は、「あきよちゃんのように、しっかりしなくっちゃ。」と思います。一方、「あきよ」も、「まさや」の手を引きながら、「私は小さくても、この子より大きいんだ。」と自覚します。こうして、二人は成長していきます。

子どもの世界は、毎日が初めてのことに溢れています。初めてのことに驚き、喜び、時にはビクビクしながら、何らかの出来事をきっかけにぐんと成長していきます。成長を象徴する「まさや」の言葉が「子どもにはね、たいていのみちが、はじめてのみちなんだ。」というものです。

大抵の道が初めてなのは、卒業生の皆さんにもあてはまると考えます。住み慣れた土地を離れる卒業生は半数を超えるものと思います。日本を離れる方もいると聞いています。

考えてみれば、大人でも初めての道は少なくありません。「まさや」のようになり「あきよ」のようになりながら、自分の「道」をひた向きに進むのが人生ではないでしょうか。

平坦で広い道、険しく狭い道、様々な「道」を自分の足で歩むことにより、周囲の世界は変化し、人は成長していきます。表舞台につながる華々しい道がある一方で、人目につかないひっそりとした道や、遠回りする道もあることと思います。どんな道でも、皆さんを新世界へと導き成長させてくれる道だと信じ、勇気を出して、一步一步、進んでほしいと願っています。

全日制課程の皆さんは、新生桐生高校の最初の入学生として新たな学校づくりに参画する経験をしました。通信制課程の皆さんは、レポート・テスト・スクーリングという新たな学びを経験しました。その過程には出会いがあり、世界の広がりを実感したことと思います。これから、ますます世界が広がります。本校での経験を自信に変えて、生涯の友との出会いがあることを信じ、果敢に挑んでください。

卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。今、皆様の脳裏に浮かぶのは、どんなことでしょうか。抱っこして眠りにつくお子様の様子でしょうか。小学校入学の頃の緊張した面持ちでしょうか。大きめの制服を身にまとってはにかむ姿でしょうか。見事に成長されました。これまでのご労苦に敬意を表します。また、これまでの本校へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちです。新しい世界で羽ばたいてください。そこには、あなたを理解し受け入れてくれる存在、助けてくれる存在がきっと待っています。

結びに、卒業生の皆さんが末永く幸多き人生を送られることを願って式辞といたします。